

新宿区地域文化財一覧（認定順）

No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
1	平成23年(2011)10月3日	すえひろてい 末広亭	都市・産業、 文化・芸術	新宿3丁目6-12 末広亭	株式会社 新宿末廣亭	昭和21年～ (1946～)	昭和21年(1946)3月、建築業を営んでいた北村銀太郎が、戦災で焼失した元の建物・地所を買い取って開業した。都内に4軒残る落語定席の一つであり、現在も落語協会と落語芸術協会が10日ずつ交代で興行を続けている。客席は1階と2階があり、計313席を有する。客席のビル化が進んでいるなかで、東京の定席としては唯一の木造建築であり、江戸時代の客席の風情をとどめる建造物である。 ●興行時を除き、内部は非公開。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
2	平成23年(2011)10月3日	かぶまちしょうげんせつつきねんり 歌舞伎町建設記念碑	都市・産業、 歴史	歌舞伎町1丁目 20と21の間	新宿区	昭和32年 (1957)	昭和32年(1957)1月、新宿第一復興地区画整理組合により建立された。昭和20年(1945)4月13日の空襲で焼け野原となった新宿駅周辺で、当時の角管一丁目が新たに歌舞伎町として再開発された復興事業の経緯と、それに尽力した組合役員の名前が記されている。戦後焼け野原から国内有数の繁華街を生み出した、地元住民の声を伝えるモニュメントである。高さ228.0cm、幅204.0cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
3	平成23年(2011)10月3日	ろくろくしやあと 六桜社跡	都市・産業、 歴史	西新宿2丁目11 新宿中央公園	新宿区	明治35年～ 昭和38年 (1902～1963)	国産初のカラーフィルムを作った小西六写真工業(現コニカミノルタ)が、明治35年(1902)から昭和38年(1963)まで操業した工場の跡地である。小西六写真工業は、明治35年5月に淀橋町に移転し、「六桜社」と改称した。玉川上水助水堀から良質な水を得られる当地に移転したのは、写真感光材料の国産化を目指してのことであった。※当時の遺構はありません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
4	平成23年(2011)10月3日	きききかっはてん 佐々木活字店	都市・産業	榎町75 佐々木活字店	有限会社 佐々木活字店	大正6年～ (1917～)	日清印刷(大日本印刷の前身)鋳造部の責任者をしてきた佐々木巳之八氏が、大正6年(1917)に独立して設立した佐々木活版製造所を前身とする。現在、活版印刷は減少し、活字店は都内でも5軒程度となった。また、印刷所が文撰・植字等の工程を行わなくなったため、当店では鋳造から植字、印刷に至る活版印刷の全工程を行うようになった。日本の出版文化史上、貴重な技術を保持している。●内部は非公開。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
5	平成23年(2011)10月3日	このえあつまつまごまくんひ 近衛篤麿公記念碑	歴史	下落合2丁目19-23 付近	財団法人霞山会	大正13年 (1924)	五撰家筆頭近衛家当主近衛篤麿を顕彰する記念碑で、大正13年に建立された。明治37年(1904)の篤麿死後、大正11年(1922)よりその邸宅が「近衛町」と銘打ち分譲されていることから、近衛家の足跡を記すために建立されたと考えられる。現在でも建物名等に「近衛町」の名称が残るなど、土地の記憶・まちの記憶として継承されている。高さ240.5cm×幅75.5cm×厚さ31.3cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
6	平成23年(2011)10月3日	はなぞのじんじや 花園神社の二宮尊徳像	歴史	新宿5丁目17-3 花園神社	宗教法人花園神社	昭和8年以前 (1933以前)	四谷第五小学校建設中の昭和8年(1933)、長崎武文(昭和8年卒業)の父・佐次郎が千葉から荷車で運んできたものという。同校が廃校になるに伴い現在地に移設された。撤去が相次ぐ中で保存された、戦前の修身教育の名残をとどめる資料である。高さ193.5cm×幅44.0cm×厚さ60.5cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
7	平成23年(2011)10月3日	はせがわへいぞうまいさう 長谷川平蔵埋葬の地	歴史	須賀町9-3 戒行寺	宗教法人戒行寺	寛政7年 (1795)	池波正太郎(1923～1990)原作『鬼平犯科帳』の主人公「鬼平」のモデルとなっている旗本長谷川平蔵の菩提所であり、かつては墓所が営まれた。平蔵は火付盗賊改役等を務め、寛政改革では石川島人足寄場を献策するなど、江戸の治安維持等に功績があった。長谷川家はその後子孫が絶え、墓所は戒行寺墓地が明治末に現杉並区に移転した際に整理合葬された。現在境内には平成6年(1994)7月に建立された供養碑がある。 ※平蔵の墓は残っていません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
8	平成23年(2011)10月3日	かぐらぎか とうほちけん 神楽坂の東八拳	生活	矢来町	東水舎	江戸時代～	「東水舎」社中が伝えるお座敷遊び「東八拳」。東八拳は、腕を使って狐・狐師・庄屋を表し、この三すくみの勝敗を競う遊びで、文政年間(1818～1844)の江戸の風俗に由来するとされ、近代以降はお座敷遊びとして受け継がれた。かつては神楽坂のお座敷でも興じられていたが、現在はイベントなどの際に公開されている。 ●不定期公開。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
9	平成23年(2011)10月3日	かぐらぎか 神楽坂をどり	生活	神楽坂3丁目6 東京神楽坂組合	東京神楽坂組合	昭和38年～ (1963～)	神楽坂芸妓の修練する芸事を一般に披露する場として、東京神楽坂組合が開催している。専門家による都市部の無形文化として芸術的側面を持つと同時に、花柳界の歴史も反映させており、神楽坂の歴史と文化を担う催しである。●毎年、区民ホールで公開。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
10	平成23年(2011)10月3日	きやうごのえだてい 旧近衛邸のケヤキ	自然	下落合2丁目17・18 間の区道上	新宿区	明治時代	樹齢100年を超える樺の大木で、区道の中央に残っている。五撰家筆頭近衛家の邸宅の車廻しにあったと伝えられ、当時の当主近衛篤磨(1863～1904)が好んだという。大正11年(1922)の近衛邸分譲後も地域住民の要望により残された。現在は区道の真ん中に残るかたちとなっており、木を迂回するように二股に分かれる道路は、一風変わった景観を形成している。明治から大正にかけて、華族屋敷の分譲により宅地化が進んだ下落合地区の町の形成を物語る樹木である。高さ約1100cm×周囲約283cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
11	平成24年(2012)3月16日	オブジェ 「歎ひ (PLAISIR)」	文化・芸術	四谷1丁目7 持田製薬 本社玄関前	持田製薬株式会社	昭和53年 (1978)	持田製薬創業65周年を記念して、当時の社長と懇意であった岡本太郎(1911～1996)が制作したブロンズ製のオブジェ。岡本作品としては、太陽の塔以降の顔をモチーフとした一連の作品のひとつであり、パブリックアートとして地域で親しまれている。高さ180.0cm×幅130.0cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
12	平成24年(2012)3月16日	げんべい せきぞうだてにせむらふ 源兵衛子育地蔵尊の 石造物群	歴史	西早稲田2丁目18- 26隣	個人4名	江戸時代～ 大正時代	旧源兵衛村(現在の西早稲田三丁目あたり)の源兵衛子育地蔵尊に安置されている地蔵尊と石造物群である。ここには、江戸中期の製作と推定される地蔵尊のほか、寛文13年(1673)建立の庚申塔や、明治33年(1900)及び大正11年(1922)建立の馬頭観音、年代不明の道標が集められている。戦後に境内を整備し、現在は西早稲田商店会が管理しているが、地蔵尊は地域住民の日常的な信仰の対象として、地域社会の紐帯ともなっている。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
13	平成24年(2012)3月16日	しょうちゆうだい 彰忠碑	平和	西早稲田2丁目18- 26隣	個人5名	大正3年 (1914)	旧源兵衛村(現在の西早稲田三丁目あたり)の源兵衛子育地蔵尊の境内奥に建立されている。伊予青石(緑泥片岩)の一枚岩を使用している。この碑は、大正3年(1914)、戸塚町兵員慰労義友会が建立したもので、日清・日露戦争に戸塚町から出征した人々の名前を伝えている。高さ279.0cm、幅242.0cm、厚さ23.0cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
14	平成24年(2012)3月16日	たいへいようせんほんしゅくうくわい 太平洋戦争本土初空襲の 地跡	平和	早稲田鶴巻町519 岡崎医院	医療法人社団 早正会岡崎医院	昭和17年 (1942)	岡崎医院付近は、昭和17年(1942)4月18日にあった太平洋戦争本土初空襲により被災した場所である。航空母艦ホーネットから飛来したジェームズ・ドーリットル中佐率いる中型爆撃機(B25爆撃機)部隊により、早稲田鶴巻町・馬場下町付近に焼夷弾が投下され被害を受けたが、その時延焼したのが岡崎医院(当時は岡崎病院)であった。※当時の遺構はありません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
22	平成25年(2013)3月25日	戸山射撃場跡	平和	大久保3丁目1-2 新宿コスミック スポーツセンター	新宿区	明治7年 (1874)	新宿コスミックスポーツセンター一帯は、明治7年(1874)陸軍用地となり、射撃の練習に用いられた。流れ弾により負傷者が出たため、昭和3年(1928)に長さ300mの鉄筋コンクリートのトンネル式の射撃場が7棟造られた。戦後は古領軍が接収・使用し、昭和33年(1958)に返還された。その後順次解体され、早稲田大学理工学部の建設工事に伴い、昭和40年(1965)に最後のトンネル式射撃場が解体された。 ※当時の遺構はありません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
23	平成25年(2013)3月25日	喜久井町 戦災者供養観音像	平和	喜久井町17 早稲田大学 喜久井町キャンパス	学校法人 早稲田大学	昭和30年 (1955)	昭和20年(1945)5月25日、米空軍による空襲があり、山手地区が焦土と化した。早稲田大学理工学研究所も被害にあい、同敷地地下に作られた防空壕には、学生数名と近隣の人々あわせて300余名が避難したが、火焔と煙に包まれて尊い命が失われた。昭和30年(1955)5月罹災十周年を迎え、これらの人々の霊を慰め、永遠の平和を祈願する本観音像を建立した。観音像の制作は二紀会の永野隆業による。碑文は昭和58年(1983)3月に早稲田大学理工学研究所が設置した。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
24	平成26年(2014)3月20日	白糸塚	文化・芸術、 歴史	新宿2丁目15-18 成覚寺	宗教法人成覚寺	嘉永5年 (1852)	二代目坂東志うか(?~1890)が、「鈴木主水と内藤新宿橋本屋の遊女白糸との情死」話に取材した芝居が大当たりした御礼として成覚寺に参詣した際に、白糸の供養として自作の句を刻銘した慰霊碑である。鈴木主水と白糸の心中事件が史実かは不明であるが、当時の世相を反映し、また新宿を舞台にした狂言作品として流行した「鈴木主水物」を顕在化した石碑として、文化的な意義をもつ。高さ40.0cm×幅67.0cm×厚さ25.0cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
25	平成26年(2014)3月20日	獅子吼会の山門	歴史	中井2丁目14-1 獅子吼会	宗教法人獅子吼会	昭和4~10年 (1929~1935)	昭和4~6年(1929~1931)の獅子吼会大本堂の建設に伴い建立された。『会祖日現聖人伝記』によると、関東・東北各地から大工や石工が集められ、大本堂の建設に高賃金で携わったとされる。他とは異なる独特の手法・意匠が各所にみられ、豊かな彫刻的表現を実現している。平成4年(1992)3月に敷地内で移築を行い、現在地に移された。その際改修が行われているが、古写真と比較して外観に大差なく、当初の姿をよく残している。江戸時代以前から続く伝統的な大工による表現・技術の集大成ともいえる作品であり、昭和初期の新しい感覚を取り入れた近代の伝統的様式建築として高く評価できる。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
26	平成26年(2014)3月20日	田島森碑	歴史	早稲田鶴巻町568 元赤城神社	元赤城神社・ 鶴巻東町会	昭和6年 (1931)	赤城神社の由来と「田島の森」と呼ばれた当地の歴史を伝える記念碑である。当地は、牛込早稲田村の「田島の森」と呼ばれる沼地であったところへ、正安2年(1300)上野国赤城山の麓から牛込に移り住んだ大胡氏(後に牛込氏に改姓)が故郷の赤城明神を祀ったと伝えられる。碑文には、赤城神社が寛正元年(1460)太田道灌によって牛込に移され、弘治元年(1555)に現在地へ遷座した後も、元赤城神社として崇敬者の手によって維持されてきたことが刻まれている。(※実際に大胡氏が牛込に移り住んだのは15世紀末頃と推定されている。)高さ116.0cm×幅72.5cm×厚さ11.5cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
27	平成26年(2014)3月20日	忠魂碑	平和	新宿5丁目17-3 花園神社	宗教法人花園神社	昭和3年 (1928)	明治40年(1907)に日露戦争の戦死者を慰霊して内藤新宿奨兵会が忠魂碑を建立したが、関東大震災により倒壊したため、昭和3年(1928)に再建した。碑の揮毫は東郷平八郎(1848~1934)による。内藤新宿奨兵会の詳細は不明だが、震災後再建されていることから、活動は昭和戦前期まで継続していたことがうかがわれる。地域から出征していく兵士や家族の心情、紐帯等を物語り、昭和戦前期における戦争と地域・市民との関わりを示す文化資源である。高さ289.8cm×幅183.0cm×厚さ20.0cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
28	平成26年(2014)3月20日	祭馬碑	平和	市谷左内町11 長泰寺	宗教法人長泰寺	大正11年 (1922)	陸軍士官学校馬術教官部の教官と馬丁らが、飼育していた軍馬の供養のために大正11年(1922)に建立したもので、土中には馬のたてがみを埋葬したと伝えられる。長泰寺に近い防衛省は、江戸時代は尾張徳川家上屋敷であり、明治以降は陸軍士官学校、陸軍省、参謀本部、大本営陸軍部等の陸軍施設が継続して置かれた場所であった。寺の門前の左内坂では、士官学校生が馬で急坂を駆け上がる訓練をしたと伝えられる。戦前、陸軍施設が集中していた新宿の歴史を示す供養碑である。高さ210.0cm×幅53.0cm×厚さ10.3cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
29	平成26年(2014)3月20日	わたなべぎょくかきゅうきよ 渡辺玉花旧居	都市・産業、 文化・芸術	中落合3丁目18-8	個人	大正14年頃 (1925頃)	日本画家渡辺玉花(1901～1996)の旧居兼アトリエ。玉花は川合玉堂門下で、山内多門から日本画を、吉村忠夫から大和絵を学び、源氏物語を題材にした一連の作品を残した。代表作は『源氏物語五十四帖』。この家は、目白文化村(第二文化村)の分譲の際に土地を購入し、建設されたものと考えられる。はじめは平屋建てであったが、昭和10年(1935)頃二階を増築シアトリエに使用していた。大幅な改修はあるが、平面構成や一部の構造部材は建築当初のものである。 ●敷地及び建物内は非公開。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
30	平成26年(2014)11月17日	はなぞの 花園アパート跡	都市・産業、 文化・芸術、 歴史	新宿1丁目27-7 トヨタモビリティ東京 新宿靖国通り店	トヨタモビリティ 東京株式会社	昭和8年～17年頃 (1933～1942頃)	装幀家・美術評論家青山二郎(1901～1979)が昭和8年(1942)から昭和17年(1942)頃までの約8年間を過ごしたアパートの跡。評論家小林秀雄や詩人中原中也も居住した。青山の部屋には、他に三好達治・大岡昇平・河上徹太郎・永井龍男らも集い、通称「青山学院」と呼ばれた。花園アパートは、文学者や芸術家が多数集った昭和初期の新宿の文化や歴史を特徴づける文芸サロンであった。なお、花園アパートには管理事務所や取次の電話、食堂や風呂などもあったと伝えられる。 ※当時の遺構はありません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
31	平成26年(2014)11月17日	みのくに高須藩主 策の池・ 松平家上屋敷跡	都市・産業、 歴史	荒木町10 策の池・ 荒木町弁財天	宗教学人解脱会	江戸時代	美濃国高須藩(現在の岐阜県海津市)松平家の上屋敷跡。屋敷内には池泉回遊式庭園が造営され、湧水や玉川上水から取水した大池や滝があった。当地には徳川家康が鷹狩りの帰途、泉水で策を洗ったという「策の井」伝承(『策の一本』)があることから、「策の池」と呼ばれ、現在もその一部が残っている。池の周囲は景勝地として明治以降一般に開放され、花街として発展した。現在の荒木町の飲食店街はこれに端を発する。四谷地区のあり様や、荒木町のまちの成り立ち、変遷を物語る史跡である。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
32	平成26年(2014)11月17日	すいじみんてんにごう 水準点II号	都市・産業、 歴史	西新宿8丁目 14-10 成子天神社	宗教学人 成子天神社	明治24年 (1891)	明治24年(1891)に日本水準原点が設置された時、同時にその変動監視のために設置された5ヶ所ある一等水準点の2番目で、成子天神社の参道脇にある。当時の標高は36.2248m(明治25年[1892]測量)であった。刻字は西面に「水準点」、東面に「II」とあり、上面南側には欠損が見られる。国土地理院により既に廃点とされ、地形図等にも記載されていないが、東京都は現在もこの水準点の測量を毎年実施している。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
33	平成27年(2015)3月27日	とうきよわかば 東京若葉キリスト教会	都市・産業、 歴史	若葉1丁目16 東京若葉 キリスト教会	宗教学人 東京若葉キリスト 教会	昭和23年 (1948)	東京若葉キリスト教会は、明治34年(1901)にカニングハム宣教師がアメリカより来日し、四谷に教会堂を建設して布教活動を始めたことに端を発する。初代の教会堂は現存せず、現在の教会堂は昭和23年(1948)に建設された三代目にあたり、建築家ウィリアム・ヴォーリス事務所の設計による。近年の改修で間取りなどに変更があるものの、窓枠や小屋組などは当初のままであり、外観も大きな変更はない。 ●礼拝時を除き、内部は非公開。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
34	平成27年(2015)12月15日	いなりおろしじんじや 稲荷鬼王神社の節分祭	歴史、生活	歌舞伎町2丁目17-5 稲荷鬼王神社	宗教学人 稲荷鬼王神社	創始時期は不詳、現在の形は昭和初期以降	稲荷鬼王神社の節分祭は、毎年2月3日の午後6時から翌朝まで拝殿で行われる。構成は、①鳴弦の儀、②福招きの儀、③春呼びの儀、④福分ち、⑤福集めの儀で、その後拝殿は一晚閉め切られ、翌朝春招きの儀が行われる。特色は①鳴弦の儀と③春呼びの儀における「鬼は内」という掛け声で、一連の儀式が夕方から翌朝にかけて行われることも含め、鬼を春の使いと捉え、一晚泊してもらい、地元の里に送り出すために行われるという。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
35	平成27年(2015)12月15日	なかいごりょうじんじや 中井御霊神社の節分祭	歴史、生活	中井2丁目29-16 中井御霊神社	宗教学人御霊神社	創始時期は不詳、現在の形は昭和11年(1936)以降	中井御霊神社の節分祭は、毎年2月3日の午後3時から拝殿で行われる。構成は、①鳴弦の儀、②鬼追いの儀式(方相氏と鬼の鬼問答・供物授与・豆まき)、③福神登場(恵比寿と大黒)、④豆まき、⑤福分ちである。鬼と福神は、里神楽萩原社中(新宿区指定無形民俗文化財)が演じている。地元の青年部や睦の協力により、今日まで行事を継続している。地域と深く結びついた年中行事である。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
36	平成27年(2015)12月15日	はなぞのじんじゅ せつぶんさい 花園神社の節分祭	歴史、生活	新宿5丁目17-3 花園神社	宗教法人花園神社	創始時期は不詳、現在の形は昭和初期以降	花園神社の節分祭は、毎年2月3日の午後2時から拝殿で行われる。構成は、①福男福女の渡御、②鬼追いの儀式(宮司と鬼の鬼問答・供物授与・豆まき)、③福神(恵比寿と大黒)登場、④豆まき、⑤福分ち、である。鬼と福神は、里神楽萩原社中(新宿区指定無形民俗文化財)が演じる。芸能を伴う伝統的な追儺の形式を現在まで継続し、神社と氏子、地域の人々、他地域からの参詣者を結びつける年中行事である。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
37	平成27年(2015)12月15日	ひかわじんじゅ せつぶんさい 氷川神社の節分祭	歴史、生活	下落合2丁目7-12 氷川神社	宗教法人氷川神社	創始時期は不詳、現在の形は昭和初期以降	氷川神社の節分祭は、毎年2月3日の午後3時頃から拝殿で行われる。構成は、①福娘登場、②神前神楽奉納、③鬼追いの儀式(鬼問答・弓・豆まき)、④豆まき、⑤福分ち、⑥直会である。神前神楽と鬼、直会における獅子舞・大黒は、板橋区の萩原正義社中が演じる。伝統的な追儺を継承し、神社と氏子、地域の人々、他地域からの参詣者を結びつける年中行事である。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
38	平成27年(2015)12月15日	よらいじんじゅ せつぶんさい 鑑神社の節分祭	歴史、生活	北新宿3丁目16-18 鑑神社	宗教法人鑑神社	創始時期は不詳、現在の形は昭和30年(1955)以降	鑑神社の節分祭は、毎年2月3日の午後3時から拝殿で行われる。構成は、①鬼追いの儀式(方相氏と鬼の問答・供物授与・鈴・豆まき)、福神(恵比寿)登場、③豆まき、④福分ちである。鬼と福神は、板橋区の里神楽萩原正義社中が演じる。また、節分祭は、七つの睦が基本となって祭礼部を担う。芸能を伴う伝統的な追儺式を現在まで継続し、神社と氏子、地域の人々、他地域からの参詣者を結びつける年中行事である。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
39	平成27年(2015)12月15日	じしやういん せつぶんさい 自性院の節分会	歴史、生活	西落合1丁目11-23 自性院	宗教法人自性院	創始時期は不詳、現在の形は昭和初期以降	自性院の節分会は、毎年2月3日の午後1時から本堂で行われる。特色は、七福神が登場することで、節分会が休日等にあたる年は七福神が自性院の周囲を廻るお繰りを行う。また、この日は秘仏「猫地藏」「猫面地藏」が開帳される。区内では、このような特色のある寺院の節分会としては唯一の事例である。また、節分会に七福神を登場させる形態は都内でも他に例がない。寺院と檀家、地域の人々、他地域からの参詣者を結びつける年中行事である。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
40	平成29年(2017)3月15日	ゆうりんえんめい 有隣園跡	都市・産業、歴史	西新宿8丁目16 新宿グランドタワー敷地内	住友不動産株式会社	明治44年～昭和20年(1911～1945)	有隣園は、明治44年(1911)に創設された、当時としてはめずらしい総合福祉施設である。創設者の大森安仁子(アニー・パロース・シェプリー、1856～1941、ミネソタ州生まれ)は、夫大森兵藏(1876～1913)と共に日本人の体位向上のための体育の啓蒙と指導、セツメント(地域社会奉仕)創設による社会事業を目指し、これを実現するため創設した。有隣園は、土地の婦人会の援助を得て経営し、授産所・幼稚園・図書館などを兼ねた。創設当初は子どもを対象とした遊び場・クラブが中心であったが、拡大に伴い、勤労青少年のための徒弟夜学校、診療所などを開設し、関東大震災に際しては職業紹介所や託児所の設置、救助活動も行った。昭和20年(1945)5月の空襲で全焼し、再建はされなかった。 ※当時の遺構はありません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
41	平成29年(2017)3月15日	たいそうじ せんとくおん 太宗寺の閻魔大王開帳	歴史、生活	新宿2丁目9-2 太宗寺	宗教法人太宗寺	江戸時代～	太宗寺では、毎年1月と7月の15日・16日に閻魔大王等の開帳を行っている。江戸時代より正月と盆の16日は「敷入り」と呼ばれ、奉公人は休日であった。この日は俗に「地獄の釜の蓋が開く日」といわれ、閻魔大王像や地獄変相十王図のある寺院ではこれを開帳し、東の間の休日を楽しむ人々の参拝で賑わった。太宗寺では、1月には閻魔堂に安置される閻魔大王像と奪衣婆像が、7月にはこれに加え本堂での曼荼羅・地獄変相十王図等の開帳、不動堂に安置される三日月不動像の開帳が行われる。なお、7月には第二次世界大戦後に地元の町会等により始められた盆踊りも行われ、境内に露店も並ぶ。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
42	平成30年(2018)10月15日	たいそうじ だいじんさいきねん 太宗寺の大震災記念碑	歴史、自然	新宿2丁目9-2 太宗寺	宗教法人太宗寺	昭和4年(1929)	関東大震災の記憶を継承するため新聞社を発起人に、旧四谷区内の町会・区議会・商業組合など103の賛助者・賛助団体によって昭和4年(1929)に建立された。揮毫は芝増上寺の道重信教による。同区も関東大震災で被災したが、被災直後より被害の大きかった地域(現在の中央区、台東区、江東区等)から避難民を受け入れた。賛助者には復興に尽力した官吏・区吏・町会のほか、震災後の四谷区を象徴する百貨店らも名を連ねている。高さ208.0cm×幅104.0cm×厚さ18.0cm。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
43	平成30年(2018)10月15日	放生寺の水掛け地蔵と大震災火災死亡群霊塔	歴史、自然	西早稲田2丁目1-14 放生寺	宗教法人放生寺	大正13年(1929)	二体の地蔵菩薩立像と一基の大震災火災死亡群霊塔は、大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災の死者を弔うため、大正13年(1924)9月1日に建立された。 地蔵菩薩立像は、関東大震災後に高野山の御願橋前の地蔵尊を勧請した水掛け地蔵であると伝えられる。群霊塔には14名の名前が刻まれているが、個人々の来歴については不明である。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
44	平成31年(2019)3月15日	文学座アトリエ	文化・芸術	信濃町10	株式会社文学座	昭和25年(1950)	文学座は昭和12年(1937)に岸田國士(1890～1954)らによって創設された劇団である。アトリエと呼ばれる劇場兼稽古場は、昭和25年(1950)に竣工したチューダー様式の建物で、伊藤義次によって設計された。ここで昭和を代表する役者である杉村春子(1906～1997)、芥川比呂志(1920～1981)、加藤治子(1922～2015)らが稽古に励み本番に臨んだ。アトリエは竣工以来数度の増改築が行われているが、建物の骨格となる柱、梁、小屋組などは当初の概形を保持している。増改築の度の設計図面のほか、設計者による建物の装飾、特注の調度品の図面等が豊富に残されている。 ●上演中を除き、内部は非公開。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
45	令和1年(2019)5月27日	新宿園跡	都市・産業、文化・芸術	新宿5丁目9-2 くらぼし銀行 新宿本店営業部	株式会社 くらぼし銀行 新宿本店営業部	大正13年～15年(1924～1926)	新宿園は大正13年(1924)9月に、番衆町35番地(現在の新宿5丁目5・6・8・9・10)に開園した遊園地である。開園以前は米相場師である浜野茂が屋敷を構えていたが、関東大震災後に箱根土地株式会社が邸宅部分を除く一万坪を買収し、庭園を生かした遊園地を開園した。 開園当初は池や薬山などの庭園の造形が見どころであったが、大正13年12月に白鳥座(劇場)、孔雀館(映画館)が、翌1月には鷗座(演舞場)が園内に開館し、初代水谷八重子(1905～1979)ら芸術座のスター俳優らが出演した。児童文学作家の鈴木三重吉(1882～1936)の指導のもと、児童劇団を結成する計画などもあったが、経営難のため大正15年(1926)5月に閉園した。閉園後は住宅地として分譲され、現在も町名にその名を残す。 ※当時の遺構はありません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
46	令和2年(2020)3月17日	弘文学院跡	歴史	西五軒町13 住友不動産 飯田橋ビル3号館	住友不動産 株式会社	明治29年～42年(1896～1909)	弘文学院は明治29年(1896)に嘉納治五郎(1860～1938)によって創設された清国人留学生のための教育機関である。開校した当初は、神田区三崎町(現在の千代田区)に立地し「亦楽書院」と称したが、明治34年(1901)11月に牛込区牛込西五軒町34番地へ移転し、弘文学院と改称した。弘文学院は留学生が日本の高等学校や大学へ入学するための予備校として、留学生に三年間の日本語教育と普通教育を行った。閉校する明治42年(1909)までの通算13年間に、7000名余りの留学生を受け入れた。著名な出身者に作家の魯迅(1881～1934)、革命家・ジャーナリストの陳独秀(1879～1942)らがいる。※当時の遺構はありません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
47	令和4年(2022)1月26日	ムーラン・ルージュ 新宿座跡	都市・産業、文化・芸術	新宿3丁目 36-16 GLITTERS Shinjukuビル	株式会社GLITTERS	昭和6年(1931)	ムーラン・ルージュ新宿座は、歌や踊りに時事風刺劇などを組み合わせて構成される「レビュー(大衆娯楽演芸)」の劇場として、昭和6年12月31日に佐々木千里(1891～1961)によって設立された。公演の構成は、40分ほどの芝居3本と60分ほどのパロディ・ショー(ダンス)1本の計4本立てを基本とし、明日待子や小柳ナナ子といった看板スターが活躍した。山の手のいわゆる「小市民」の平凡な日常を、社会に対する風刺を交えながら描く喜劇は「ムーラン調」と称され、ムーラン・ルージュ新宿座独特の魅力として、山の手の学生やサラリーマンから受容された。昭和20年5月空襲で劇場が焼失するまでに439回の公演を重ね、昭和22年(1947)5月に復活してから昭和26年(1951)に解散まで94回の公演を行った。 ※当時の遺構はありません。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
48	令和7年(2025)1月23日	稲荷鬼王神社の富士塚	歴史	歌舞伎町2丁目 17-5	宗教法人 稲荷鬼王神社	昭和5年(1930)	稲荷鬼王神社の富士塚は、昭和5年(1930)に丸谷謙によって築造された区内で最も新しい富士塚で、かつては西大久保富士と呼ばれた。同年6月15日に行われた開山式では、各講のマネキがはためき、祝い酒がふるまわれ、数珠を首から下げた講員をはじめとする登拝者たちが列をなして富士塚に登った。この様子は、新宿歴史博物館所蔵の映像「富士開山式」に収められている。当初の塚は、昭和24年(1949)の道路拡幅工事のため移築され、同43年(1968)には社務所建設のため、一合目から四合目を北側に、五合目から山頂を南側に分割した現在の形に改築されている。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
49	令和7年(2025)1月23日	月見岡八幡神社の富士塚	歴史	上落合1丁目 26-19	宗教法人 月見岡八幡神社	昭和37年(1962)	寛政年間(1789～1801)に、現在の山手通り(環状六号線)と早稲田通りが交差する上落合二丁目交差点付近に存在した古墳を、富士塚に転用したのが起源とされ、かつては浅間塚と呼ばれた。その後、昭和2年(1927)に山手通り(環状六号線)の整備に伴い、当時の月見岡八幡神社の境内(現在の新宿区立八幡公園)に移されたが、昭和37年(1962)に落合下水処理場(現在の落合水再生センター)建設により神社の遷座が決まり、富士塚も現在地に移転した。この富士塚は落合地域を拠点とした富士講「月三講」が築いたもので、昭和2年の最初の移築の際には、富士吉田から1万円分の富士山の黒ボク石(溶岩石)を購入して再築したという。



No.	認定日	認定名称	分野	所在地	所有者等	年代	説明
50	令和7年(2025)1月23日	にしむてんじんしゃ ふじづか 西向天神社の富士塚	歴史	新宿6丁目 21-1	宗教法人 西向天神社	大正14年 (1925) 改修	<p>西向天神社の富士塚は、当初は天保13年(1842)に築造されたもので、関東大震災後の大正14年(1925)6月に改修・再築して現在に至っている。富士塚の変遷等を示す記録等は残っていないが、関東大震災で大きな被害を受け、その後再築に近い大規模な改修が行われたものと推定される。</p> <p>台地の斜面の地形を利用して造られており、北側の西向天神社の鳥居側に浅間神社の碑とともに一合目の石標があり、その奥に御胎内が造られている。塚は南に向かい徐々に標高が増していく。富士塚の西の裾野は台地の斜面を利用しているため広がりがあり、新宿区立天神山児童遊園に接する塚の東側はかなり狭くなっている。</p> <p>富士塚には合計19基の講碑等が建てられているが、塚の造営当初のものは1基を残すのみである。</p>

